

働くことの意義

第1期OB 辻 要

社会に出て、6年の月日が流れようとしています。

日本国憲法では、国民の三大義務を納税・教育・勤労と制定しているわけですが、人は何故働くのでしょうか。生来怠け者の私は最近よくこの疑問にぶち当たります。

私は営業職なのですが、6年目になり、人事部の応援で新卒面接に立ち会うことができました。よく学生は「御社で働くことで私の自己実現につながります。」と杓子定規にいます。「あなたの自己実現とはなんですか？」と問うとこれもまた、「多くの人の役に立ちたい。」とまた杓子定規に返してきます。しかし、このありきたりの問答に働くことの意義が集約されているということに最近気づかされました。

私の就職活動期は2001年。俗に氷河期世代の中で最も悲惨な時期と言われた年で大卒就職率は55.1%と非常に厳しい就職活動を経験しました。かくいう私も何とかなるだろうとタカをくくっていましたが、ことごとくエントリーシートが落ちてくるようになると、さすがに自分の中でも悲壮感が漂ってきました。それなりに志望理由や自己PRも書いたつもりではいたのですが、自分が全て否定された気がしてかなり落ち込みました。

そんな中、縁あって今現在キッコーマン株式会社で働いているのですが、入社した当時は仕事に対しての理想と現実とのギャップに苦しみ、生意気ながら「自分はこんな仕事をするために入社したわけではない、早く辞めよう。」といつも自分自身に対し、自問自答が続きました。自分らしさを探すために色々な世界も覗いてみようとしたのですが、何も見つからないし、自分の中でも何かしっくりとくる部分がありませんでした。

どんな状況下におかれても、自分がすべきことから逃げ出していると、何もかもがうまくいくわけではありません。世の中というのはうまくできているものです。そんな悶々としている中、頑張ろうと勇気付けさせてくれたのは、日々の業務において、得意先に「いつもありがとう。」と言ってもらえることでした。人間は自己実現欲求よりも先に承認・尊厳欲求があって欲求が満たされるものです。

今現在も自分がどういうキャリアを進みたいか、どんな人生を送りたいか、28歳になった今も明確な答えは見つかりません。ただ1つ、この6年間で学んだ大きな財産は、働くことの意義は人の役に立つことにあり、「ありがとう。」と言われることの積み重ねによって、自分がまた一歩成長したと思えることが毎日の励みになるということでした。

多くの人の役に立てるよう今後の人生を全うしたいと思っている今日この頃です。



著者近影